

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300432		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホーム 元気村		
所在地	埼玉県本庄市田中105-1		
自己評価作成日	平成23年10月6日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは「配慮するケア」を実践しています。ここでの生活は短いものです。ここを出れば施設か病院です。だからこそ、せめてここで暮らして「ゆっくり、のんびり、穏やかに」過ごして頂きたい。出来ない事が増えても、わからない事が増えても、その人らしく過ごして頂きたい。職員一同がそんな想いでケアに当たらせて頂いております。又、できるだけ薬に頼らず、食事での体質改善にも力を入れてます。野菜中心の食卓であり、「食を楽しむ」と言う気持ちで毎日バラエティにとんだものを提供させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは民家が点在している静かな環境の中にあり、周囲には田畑や野菜栽培の温室が多い。「ゆっくり、のんびり、穏やかに」を運営理念に掲げ、入居者と職員が共同して日常生活を営んでいる。特に「食」に力を入れ、栄養面でも工夫をしている。季節の食材を使い、入居者と一緒に行き作りし、バラエティに富んだ食事を提供している。介護計画も全職員で検討し、入居者が出来るだけ自立した生活を長い期間送れるよう工夫している。個々の身体状況も職員全員が共有して支援にあたり、入居者、家族から信頼されている。職員の向上心も強く、今後の支援に期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげている 「ゆっくり、のんびり、穏やかに」の理念を職員全員が共有し、入居者様は勿論、ご家族様にとっても住みなれた地域で安心して暮らしていける様、全力でケアに当たらせて頂いている。	日常的な職員間の会話や申送り、会議の中で検証し、共有している。地域密着型サービスの意義を踏まえ、施設の理念として日々業務のあらゆる場面で深く浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	している 地域の行事や回覧等、可能な限り参加させて頂いている。また、地域のボランティアの方々も頻りに訪れて下さったり、消防安全協会に加盟させて頂いたり、幅広い交流を図っている。	自治会に加入し、草取りや町内清掃に参加している。又、近隣の方が大正琴やアニマルセラピーのボランティアとして訪問してくれる。消防安全協会にも加盟している為、消防職員がポスターを持って訪問し、注意やアドバイスを受ける事が出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	している 毎月、広報誌などで情報を開示し訴え続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	している 毎回、その時々状況に則した話し合いを行い、日々のケアに繋げている。この議題に関しては、ご家族様からも議題提示等もあり、話し合いの内容も深い。	家族、市担当職員、ホーム側職員が参加し、奇数月第二土曜日に実施している。敬老会に関する事や後見人制度の研修、介護保険施設の仕組み等幅広い内容を取上げ、進行の仕方も工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	している 本庄市とも連携を密にし、様々な事柄について助言、アドバイスを求め、それらの意見をサービスに反映させている。また、運営推進会議に参加して頂き、相互理解に努めている。	介護保険更新書類の届けや夜間の緊急時体制の相談、講師依頼に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	している 「身体拘束排除マニュアル」に沿って身体拘束を行わないのは勿論だが、「心理的拘束」も行わない様、言葉遣い等にも細心の注意を払っている。	行動制限しないケアを実施している為、玄関に鈴を取付け、ドアを開けると分かるようにしている。身体、言語等の拘束をしない方針である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	している 「虐待防止」に関しての勉強会を行い各自の意識を高めていくのは勿論だが、心にゆとりが持てる様、職員間の連携を密に図り、ホーム全体で考えていく方法をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	している これに関連した入居者様がいらしたので、日々の業務の中で情報を共有しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	している 入所前からご家族様のご理解を得られる様、そのつど努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	している ご家族様からのご要望には速やかに対応し、書面等でも開示。また、運営推進会議の議題なども御家族様から提示して頂き、日々の業務に反映させている。	記録送付時の言語表現や居室内の物の配置変え、身体介助方法等に注意や希望等があり、対応出来るものから日常業務に反映し、支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	している 日々のコミュニケーションは勿論、職員会議内でも各々の意見を聞き、より良い運営ができる様努めている。	職員会議だけでなく、日常業務の中でも意見や提案が出ている。職員間の連携が良く、反映出来る意見や提案については、即実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	している 職員の努力をきちんと認め、各々の意見に耳を傾けてくれたり、相談にのってくれている。また、労働環境等の整備にも尽力を尽くしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	している ホーム内の勉強会は勿論、各種研修に参加させてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している 昨年度より、他の事業所との合同研修会を企画、参加。他事業所の方々との交流は勿論だが、相互理解や質の向上におおいに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	している ご本人様は勿論、ご家族様や関係者の方々から幅広く情報を収集し、信頼関係の構築に職員一同、一丸となって努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	している 十分な話し合いを重ね、少しでも安心して頂ける様、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	している（上記同様）		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	している 「介護」では無く「支援」と考え、入居者様から人としての生き方や家族の在り方などを学ばせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	している 毎月、担当職員がその月の状況を手紙に書いて伝えたり、御面会にいらして下さった時に、今後の方向性を共に考えて頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	している 入所前から行っている趣味のお教室等に通って頂いたり、生活習慣の継続を図ったり、あるいは親戚の方やお友達が訪ねて来て下さったりと、常に関係性が途切れない様にしている。	親戚や近所の方がよく訪問してくれている。又、2ヶ月に一度同じ理美容師が訪問してくれている。入居前からの趣味を家族の送迎で続けている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	している 本人同士の相性等も踏まえつつ、お互いが理解し合い「ありがとう」が言える環境が作れる様、職員全員が努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	している ホームを退所した方やそのご家族様が訪ねて来て下さったり、電話を下さったりと、退所後も関係が継続している方も多い。また、各事業所も同様で、情報交換等をしあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	している センター方式を導入しアセスメントすると共に、日々のコミュニケーションは勿論、表情、仕草、言動などから心理を追求し、ニーズに応えられる様、努力している。	担当職員が月に一度モニタリングしたり、日常生活の中から表情、仕草、言動等から意向等を汲み取り、入居者本位で検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	している ご本人様は勿論、ご家族様からもお話を伺いながら、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	している ケース記録等に記入し、職員全員が情報の共有に努めながら、1日の生活の中でご本人らしさを発揮できる様、常に模索しながらケアに当たらせて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	している 3ヶ月に1度、担当職員がアセスメントし、職員会議等で話し合うと共に、ご家族様からも意見を伺い、現状に即した介護計画を立てている。	担当者が月に一度アセスメントしたものについて職員会議で話し合い、家族の意見や意向を聞き、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。サービス担当者会議の要点も作成し、家族に送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	している 毎日、ケース記録に個別の情報を書き込むと同時に、各担当職員が考察を記入しながら情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	している グループホームとして、できる範囲の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	している 地元のボランティアの方々は勿論、民生委員の方々や消防署の方々が支援して下さっている。。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している ご家族様のご協力により、以前から通院していた病院に現在も通っている方が殆ど。また、これ以外にも連携医とも協力をし、健康管理にあたっている。	入居前のかかりつけ医への受診を家族対応でお願いしている。日常の様子を手紙に書く等、主治医への報告を工夫している。緊急時には職員で対応している。結果については互いに共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	している 病院サイドとも常に連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員がいない為、おこなっていない	入居時にホーム側の方針を伝え、説明している。シャワー浴が出来なければ退所の旨も了解を得ているが、家族と共に前向きに考え、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	している 緊急時に備えた情報の共有化は勿論、常にシュミレーションし、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	している 火災に関しては訓練を行っているが、自然災害に関しては土嚢の作り方を身につけたり、災害時の対応等を勉強しつつある。	消防署立会い、指導の下での訓練と、水消火器を借用しての自主訓練の年二回、避難訓練を実施している。近隣の方へは案内しているが、留守のお宅が多く、現状は参加が期待出来ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している 言葉ひとつも「環境」と考え、職員一人一人が細心の注意を払い、意識しながら声掛け、対応に当たっている。	トイレ等誘導時の声掛けは、言葉だけでなく、時には動作で対応している。声掛けにはどんな事にも細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	している 行動抑制は勿論、何かをお願いする時も強制はせず、常に入居者様に決定権があるような声掛けをすると共に、日頃から信頼関係の構築に努め、話しやすい環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼしている 集団生活の中での個別である為、全て入居者様中心とはいかないが、できるだけ一人一人のペースで過ごして頂ける様、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	している 本人の希望を伺いながら、その人らしいお洒落が出来る様、支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している 調理や片付け等、できる人は限られてしまうが、自発的にこういった事に取り組んで頂ける様、常に環境整備に気を配っている。	献立はなく、その日冷蔵庫にある物や近所から頂いた物、季節に収穫出来る物等を利用し、栄養面に配慮した食事を提供している。入居者と一緒に食材の買物に行く時もあり、入居者個々に出来る事はしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している 食事量は勿論だが、水分摂取量にはかなり気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している 毎食後、職員と共に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	している 「できるだけオムツはしない」方針で、支援させて頂いている。	日中はリハビリパンツ使用の入居者が多くいるが、歩行出来る人はトイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。夜間はオムツ使用の入居者が数人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	している 「薬に頼らない」方針で、食材の工夫等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	していない 入浴日は決まっている。ただ、入浴の際は、一人一人の希望に即した入浴ができる様、支援させて頂いている。	基本的には週三回の入浴日が決められているが、可能な限り入居者の希望に沿って支援している。入浴剤等を使用し、ゆっくりと入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している ゆっくり眠れる様、昼間から穏やかな時間作りに尽力すると共に、15時以降はカフェイン系を控えたり、就寝前にはホットミルクを提供するなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	している 服薬表をいつでも確認できる様にし、職員全員が薬に対する知識の向上に努め、業務に当たっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	している 音楽療法や大正琴の慰問、アニマルセラピーなど、皆さん楽しみにしてらっしゃる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の方のみしている 身体能力の低下等から、ホーム周辺の散歩以外の外出はしていない。散歩以外の外出に関しては、ご家族様が協力して下さり、行っている。	歩行出来る入居者に限り、近場を散歩している。出来ない入居者については、窓を開けたり、玄関先で外気浴をしている。全体的に身体機能が低下してきている為、花見や墓参りは家族に協力してもらい、対応している。	現状、外出支援は家族に委ねる傾向となっている。職員体制や時間配分等を工夫し、施設主導の積極的な外出支援が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない 金銭的理解のできる方がいない為、現在は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方のみしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している 「認知症高齢者の為の環境支援指針PAPE3」に基づき、BGM、採光、四季感等に配慮させて頂いている。	フロアは広くゆったりしたソファが用意され、寛げる。入居者と職員で塗ったぬり絵が貼られたり、沢山の折り紙が掛けられ、BGMや採光、窓からの景色で四季を感じられる。各居室の入口には、好みののれんが掛けられてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している ソファや椅子等を設置し、居心地の良い空間を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している ご家庭で使用していた物をご用意して頂き、今までの生活空間に出来るだけ近い環境となる様、努力している。希望に応じ、畳もご用意し和室対応もしている。	各居室にはベット、カーテン、洋服ダンスが備え付けてある。入居前から使用している机や小物入れ、テレビ、写真等を置き、使いやすく整理してある。畳を敷き、コタツを置いている入居者もいて、思い思いの部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	している 入居者様一人一人に応じた対応を常に心掛けている。		